

【事業報告】第1回全体勉強会

【講演の内容】

- ①リニアの経済的効果ばかりが強調されるが、経済に縛られ「儲かる」「便利」「速い」などの欲望を持ちつづける限り、絶対に良い地域はできない。そうした経済的効果は忘れて、本質的なまちづくりに取り組まなければならない。
- ②地域の人が誇りを持ち、その地域で生きて行く意味合いを問い直し、一人ひとりが小さな行動を起こして行くことが大切である。定住者が増えていくためには、地域の人が間に入って外からの人を入れる。地域の人が本気になるかが基本である。(清内路の事例を用いて説明)
- ③リニアの施設整備に将来を託そうとするのではなく、地域の未来も人口の増加も、私たちが小さな単位で地域に仕事をつくり、自分たちの創意工夫で生きて行こうとする、意識と努力にかかっている。

【考 察】

恵まれたインフラ整備で直ぐに地域が良くなることはないのは周知の事実であるが、リニアをあえて無視して小さな単位での創発を主張されたことには驚かされた。ある意味極端な理論であるが、地域づくりが大資本による経済効果だけで成り立ち得ないのも事実である。経済面での効果と高橋理論をアッフヘーベンして、更なる高みへと止揚できる理論の構築が必要であると感じました。

【日 時】 平成28年9月26日(月) 18時30分～20時30分

【場 所】 シルクホテル 飯田市錦町1-10 0265-22-3649

【演 題】 「リニアを見据えたまちづくり、コンテンツを考える」
—リニア開通までにやらなければならないことは何か—

【講 師】 高橋寛治 氏 (1944年生まれ。中央大学法学部法律学科卒業
元飯田市役所 産業経済部長、元高野町副町長
総務省「地域人材ネット」登録)

【参加者】 ◎南信州アルプスフォーラム会員 18 名
◎(一社)飯田青年会議所 11 名
◎行政関係者 31 名